

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	木村 俊雄
論文担当者	主査 小山 英則
	副査 新村 健
	副査 鈴木 敬一郎
学位論文名	Impact of lipoprotein (a) on long-term outcome after percutaneous coronary intervention in the era of new generation drug-eluting stents (New generation DES 時代におけるリポプロテイン(a)が与える長期予後への影響)
論文審査の結果の要旨	
<p>Balloon angioplasty、従来型金属ステントあるいは第一世代薬剤溶出性ステント時代において、リポプロテイン(a)[Lp(a)]高値が長期予後不良の予知因子であることが報告されているが、新世代薬剤溶出性ステント(new generation DES)時代における報告はない。木村俊雄氏は new generation DES 時代における高 Lp(a)が与える長期予後への影響について検討した。</p> <p>本研究は 2013 年 1 月～2017 年 12 月までの間に、虚血性心疾患の診断で new generation DES を用いてカテーテル治療(PCI)を実施し、生存退院した 495 症例を対象とした。主要評価項目は主要有害心血管イベントとし、心臓死、心筋梗塞、ステント血栓症、臨床的に必要とした標的病変への再血行再建、新規病変への血行再建、の複合ポイントとした。Lp(a)値 30mg/dL をカットオフ値とし、high Lp(a)グループ(≥30mg/dL: n=109)と low Lp(a)グループ(30mg/dL&gt;: n=386)の 2 群に分けた。MACE 発生率を Kaplan-Meier 曲線で分析したところ、high Lp(a)グループで有意に高く (33.0% vs. 15.9%, p&lt;0.001)、単変量解析及び多変量解析の結果、Lp(a)値≥30mg/dL が独立した主要有害心血管イベントの予測因子であった(HR 2.01, 95%CI 1.30-3.11, p=0.002)。</p> <p>木村氏の研究成果は、new generation DES 時代においても Lp(a)高値が長期予後不良と関連することを示した重要な知見である。単施設研究、後方視的研究という Limitation はあるが、将来の心血管イベント残余リスク制御に向けた新しい方向性を示したもので、十分学位論文に資すると判断する。</p>	